

めぐみイエス・キリスト教会

2023年6月25日(日) 第四主日礼拝

午前10時より

週報「通算第663号」



2023年標題聖句

第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌337「愛する主よわが君よ」p. 676

【交読文】 No.31 詩篇第100篇 p. 904

【賛美Ⅱ】 新聖歌233「驚くばかりの」 p. 668

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「ビジョン」

【聖書朗読】 使徒の働き27章27節～44節(新約p. 293)

【礼拝説教】 《航海の果てに》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所(使徒の働き27章27節～44節)

27:27 十四日目の夜になり、私たちはアドリア海を漂っていた。真夜中ごろ、水夫たちはどこかの陸地に近づいているのではないかと思った。

27:28 彼らが水の深さを測ってみると、二十オルギヤであることが分かった。少し進んでもう一度測ると、十五オルギヤであった。

27:29 どこかで暗礁に乗り上げるのではないかと恐れて、人々は船尾から錨を四つ投げ降ろし、夜が明けるのを待ちわびた。

27:30 ところが、水夫たちが船から逃げ出そうとして、船首から錨を降ろすように見せかけ、小舟を海に降ろしていたので、

27:31 パウロは百人隊長や兵士たちに、「あの人たちが船にとどまっていなければ、あなたがたは助かりません」と言った。

27:32 そこで兵士たちは小舟の綱を切って、それが流れるままにした。

27:33 夜が明けかけたころ、パウロは一同に食事をするように勧めて、こう言った。「今日で十四日、あなたがたはひたすら待ち続け、何も口に入

れず、食べることなく過ごしてきました。

27:34 ですから、食事をするよう勧めます。これで、あなたがたは助かります。頭から髪の毛一本失われることはありません。」

27:35 こう言って、彼はパンを取り、一同の前で神に感謝の祈りをささげてから、それを裂いて食べ始めた。

27:36 それで皆も元気づけられ、食事をした。

27:37 船にいた私たちは、合わせて二百七十六人であった。

27:38 十分に食べた後、人々は麦を海に投げ捨てて、船を軽くした。

27:39 夜が明けた時、どこの陸地かよく分からなかったが、砂浜のある入江が目にとまったので、できればそこに船を乗り入れようということになった。

27:40 錨を切って海に捨て、同時に舵の綱を解き、吹く風に船首の帆を上げて、砂浜に向かって進んで行った。

27:41 ところが、二つの潮流に挟まれた浅瀬に乗り上げて、船を座礁させてしまった。船首はめり込んで動かなくなり、船尾は激しい波によって壊れ始めた。

27:42 兵士たちは、囚人たちがだれも泳いで逃げないように、殺してしまおうと図った。

27:43 しかし、百人隊長はパウロを助けたいと思い、彼らの計画を制止して、泳げる者たちがまず海に飛び込んで陸に上がり、

27:44 残りの者たちは、板切れや、船にある何かにつかまって行くように命じた。こうして、全員が無事に陸に上がった。

●ポイント1.「パウロの励ましの言葉」とは？

※ルカの福音書21章18節～19節「主イエス様の言葉から」(新約p.163)

21:18「しかし、あなたがたの髪の毛一本も失われることはありません。

21:19 あなたがたは、忍耐することによって自分の命を勝ち取りなさい。」

●ポイント2.「主イエス様のなされた祝福の行為」とは？

※ルカの福音書24章30節「エマオのクレオパ夫妻の家にて」(新約p.173)

24:30 彼らとともに食卓に着かれると、イエスはパンを取って祝福し、裂いて彼らに渡された。

◎先週の礼拝メッセージ【良い港を船出して】

《アレクサンドリアの大型船は、良い港に寄港し、そこで停泊しました。しかし、船長たちは、この港よりも、クレタ島の反対側にある「フェニクス」に行くことを考えていたのです。すると、穏やかな南風が吹いて来たのです。船長たちは思い通りになったと考えて、錨を上げて、クレタの海岸に沿って、船を航行させました。しかし、しばらくしますと、クレタ島の海拔2,000mを越す山々から、「ユーラクロン」という暴風が吹き降ろして来たのです。船はそれに巻き込まれて、流されるままとなってしまいました。やがて船は暴風に激しく翻弄され、太陽も星も見えない日が何日も続き、276人の乗客が助かる望みも、今や完全に絶たれようとしていました。その時パウロは立って、言いました。「皆さん。あなたがたが私の言うことを聞き入れて、クレタから船出しないでいたら、こんな危害や損失を被らなくてすんだのです。しかし今、あなたがたに勧めます。元気を出しなさい。あなたがたのうち、命を失う人は一人もありません。失われるのは船だけです。昨夜、神の御使いが私のそばに立って、こう言ったのです。『恐れることはありません、パウロよ。あなたは必ずカエサルの前に立ちます。見なさい。神は同船している人たちを、みなあなたに与えておられます。』ですから、皆さん、元気を出しなさい。私は神を信じています。私に語られたことは、そのとおりになるのです。私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。」と。何と、276名の乗客全員が救われることを主は約束されたのです。そして、船主と船長は船や積み荷を、乗客は荷物を失いますが、彼らは救われ、「永遠の命」をいただくことになるのです。まさにパウロが、ローマ書において語ったとおりです。『神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことが共に働いて益となることを、私たちは知っています。』と。神様の言葉は、必ず成就するのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、7月2日(日)午前10時からです。